

真弓山～風神山(280～242m)



見晴らし台



一の鳥居



風の広場



真弓神社

風神山と風神・雷神の碑

風神山(標高二百四十一メートル)は、南側に温帯風、北側に寒帯風を受け、山頂がその接点となり、風の強いところだ。

この山頂に守護神として江戸時代に「風神の石像」と「雷神の碑」が建立され、風神山の象徴となりました。

ここに鬼が住んでいたという里人の言い伝えもあり、風神・雷神は天然現象のうち、とくに風と雷を神格化したものです。

風神の碑は、寒水石の表面に風袋をかつぎ山頂に立つ姿の風神像が浮き彫りされていて、手の指は東西南北を表す意味から四本指です。風神は名譽福徳をさるる神ですが、後に西北の守護神とされています。

雷神の碑は、石の表面に別雷皇太神宮の文字が刻まれています。雷神は一般に雷電を起こす神とされていますが、下界に降りて稲を突くす神とされ、手の指は過去、現在、未来を表す意味から三本指です。

風神、雷神は昔から五穀豊穡、海難回避を祈願された神といわれています。



取手 6:33(高萩行き)→大薗 8:20=バス 8:30→西真弓バス停
8:50=9:00→一の鳥居(表 参道)→見晴らし台→真弓神社
10:10→三角点(295m)→屋敷 11:35→12:10→風神山 12:40
→風の広場→大薗神社→大薗駅 15:10→勝田→取手 17:00

令和4年2月6日

